

## 生物統計学と生物統計家に出会って

小川 光紀 (東京医科大学)

私の生物統計学との出会いは遅く、計量生物学会の会員になったのも比較的最近のことです。そのような中でこのシリーズに参加させていただくのは恐れ多いという気もするのですが、依頼を受けたのだからと割り切って、これまでを振り返りつつお伝えできることを模索していくことにします。

私が最初に統計学の研究室に所属したのは大学院生のときです。数理統計学の中でもやや特殊な計算代数統計学という分野で研究をしていました。当時の関心は統計学自体というよりも統計モデルに付随する数理構造の方にあり、統計学の実践という観点への意識は低かったと言わざるを得ません。それでも研究を続けていくうちに、統計学としての意義と自身の研究内容とを見比べた際の違和感が無視できなくなっていき、博士課程修了から最初の職場に在籍していた頃は中長期的な方向性を悩ましく思うことが増えていました。

転機となったのは二つ目の職場である東京大学大学院情報学環への異動です。いくつかの偶然も重なり、同大学院学際情報学府に新設される生物統計情報学コースの教員として異動し、そこで初めて生物統計学や生物統計家とよばれる方々との関わりが生じました。生物統計情報学コースは実務家としての生物統計家の育成を目的として設立されたコースのため、コース教員としても生物統計学の実務経験が豊富な先生方を中心に構成されていました。統計学の数理的側面に主な関心があるのは私一人という状況でした。それまでの研究上の関わりが数理統計学や応用数学のコミュニティに属する方々に偏っていた私としては、学術的な関心から慣習面に至るまで様々な違いがあり、戸惑うこともありました。

私の在籍時の生物統計情報学コースは修士課程のみで、修了後は基本的にはアカデミアの生物統計家（実務家）として活躍することが期待される特徴的なコースでした（本稿執筆時の 2025 年度は、来年度に博士課程が新設される過渡期に当たります）。カリキュラム構成も実務家養成が明確に意識されており、生物統計学に関わる広範なトピックを、特に実務の観点を重視して網羅的に学べるよう設計されています。直接対応する学部を学内にもたないコースのため、入学してくる学生の背景は多様です。

生物統計情報学コースには長くお世話になったのですが、そこでの経験や刺激は現在の私の統計学というものの捉え方に大きく影響しています。元々は統計学の数理的側面に関心があり、様々な応用分野の特にどれにという興味がもてずにいた私にとって、応用先がある程度固定された生物統計学に特化した環境に放り込まれたことは非常に大きかったです。数理統計学者も応用分野をもつとよい、といった言説は時々耳にするのですが、今では実感を伴って強く同意できます。特に、生物統計学という領域は、応用先が明確であるだけでなく、理論や方法論の研究という観点からも、洗練された数学が必要な問題から込み入った数学を必要としない実践的問題まで様々な研究に意義があり、奥深さと幅広さをあわせもつ魅力的な分野であると感じます。

生物統計情報学コースには、実務だけでなく生物統計学そのものの研究に強い意欲をもつ学生も一定数いました。実務と研究は生物統計学の発展における両輪と思いますが、コース自体が実務家養成に照準を合わせて設計されていることもあり、生物統計学自体の研究者を育てる、という観点ではどのようなスタンスで臨むべきか難しく感じるものがしばしばありました。修士の 2 年間という限られた時間の中で

はありますが、修了後も含めて成長の糧になればと願いつつ、現在の職場に移ってからも、非常勤で一部の講義の担当を継続しながら試行錯誤を続けています。

私は現在、東京医科大学の医療データサイエンス分野に所属し、引き続き研究教育業務に従事しています。現所属では、生物統計学の基礎としての数理統計と疫学・臨床研究における生物統計学の実践の両面を重視することが研究室の指針になっていると感じます。教員・学生ともにバックグラウンドは多様で、学術的な軸足の取り方も様々ですが、それぞれの強みを活かしつつ、関連領域への理解も深めていこうという空気感があり、教員の立場でありながら私自身も様々なことに気付かされる毎日です。

理論から実践まで幅広い立場からの取り組みに意義があるという懐の深さは、生物統計学という学問分野が元来もっている魅力の一つだと思います。しかし、それが前面に発揮される環境は勝手に出来上がるものでは必ずしもなく、一人一人が広い視野への意識と隣接分野への敬意をもつことで初めて実現できるのだろうと感じています。代数統計学という現状の生物統計学からは遠い地点から研究活動をスタートし、偶然（幸運？）も手伝って生物統計分野に関わりをもつようになった私としては、分野が元来もつ懐の深さを活かした発展に少しでも貢献できるよう、試行錯誤を続けていく所存です。